

飼料イネ等の新規需要向け多収品種の除草剤

稲発酵粗飼料、飼料イネや米粉等の新規需要向け多収品種の作付けが増加しています。これらの品種の中に特定の除草剤の成分に極めて弱いもののあることが、東北農業研究センター、中央農業総合研究センター、作物研究所、九州沖縄農業研究センターによる連絡試験により明らかとなりました。これら品種の栽培には除草剤の成分に十分注意が必要です。

☆ 技術の概要

1. 水稻品種「ハバタキ」、「タカナリ」、「モミロマン」、「ミズホチカラ」、「ルリアオバ」、「おどろきもち」、「兵庫牛若丸」を栽培するときには、1) ベンゾビシクロン、2) メソトリオン、3) テフリルトリオンのいずれかの成分を含む除草剤を使用しないこと。
2. これらの除草剤成分はいずれも多く多くの植物に対し強い生育阻害と白化症状を示し、上記の水稻7品種では薬害を生じさせ、枯死させる場合があります。
3. ベンゾビシクロンは従来の除草剤に抵抗性をもつイヌホタルイなどの難防除雑草に有効な成分として多くの水稻用除草剤に含まれており、また平成22年に発売されたメソトリオンとテフリルトリオンも耐性雑草に有効です。
4. なお、これらの除草成分でも、暖地で栽培される「ミナミユタカ」、「ニシアオバ」、「タチアオバ」、「まきみずほ」などの品種に対しては強い薬害を生じさせません。また、通常の食用品種に対しては、いずれも安全に使用できます。

イマズスルフロン・エトベンザニド・ダイムロン粒剤

イマズスルフロン・オキサジクロメホン・ダイムロン水和剤

シハロホップブチル粒剤

ダイムロン・ベンスルフロンメチル・メフェナセット粒剤

ピラズスルフロンエチル・フェントラザミド粒剤

ピラゾレート粒剤

ピリミノバックメチル・ベンスルフロンメチル・メフェナセット粒剤

プレチラクロール粒剤

- 1) 試験には、「ルリアオバ」「ミズホチカラ」「モミロマン」「タチアオバ」「ニシアオバ」「ミナミユタカ」を供試した。
- 2) 1/5000aポットを用い、2008年5月9日に極端な浅植えで移植し、翌日に通常使用量の2倍の量の除草剤を処理し、処理20日後に地上部乾物量を調査した。
- 3) いずれの除草剤処理も、無処理との間に5%水準で地上部乾物量に有意な差が認められなかった。

表 いずれの新規需要向け多収品種でも薬害が問題とならない除草剤の一例

(平成21年度 九州沖縄農業研究センター成果情報)

☆ 活用面での留意点

これまでイヌホタルイ、コナギなどの水田雑草（スルホニルウレア抵抗性雑草）に対して有効であるとして広く一般に使われてきた除草剤のなかに、新規需要米品種に薬害を生じさせるものがあることから、新たに飼料米や米粉用の多収性品種を栽培する場合には除草剤の成分について十分注意をする必要があります。詳細については中央農業総合研究センター雑草バイオタイプ・総合防除研究チーム(TEL:029-838-8953)、九州沖縄農業研究センターイネ発酵TMR研究チーム(TEL:0942-52-3101)へお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 矢島正晴)